

『聖書ヘブライ語文法』－日本語訳課題の訳例

(ver.1 /2025年8月3日作成・小脇光男)

[注意]

- ・直訳を原則とした。
 - ・2人称の人称代名詞は、原文の文脈に馴染まないこともあるが、全体として「あなた(方)」、「お前(たち)」などで訳した。待遇表現は考慮に入れていない。
 - ・接尾人稱代名詞は、煩わしくなる場合は、いちいち訳出していない。
 - ・文中に書かれていない具体的な人名は適宜、訳文に補足した。
 - ・未完了、weQTL は文脈によっていろいろなモダリティーをもつが、特に訳し分けていない。
 - ・関係詞 *ašer* や接続詞 *ki*、*le-*不定詞句などが一文中に多用されて長々と続く文では、できるだけ前から順に訳し、原文中の区切り目が分かるようにした。
 - ・後代に付加された(と思われる)語句が含まれる長文は、決して分かりやすい文体とは言えず(悪文)、訳しにくい。とりあえず大筋が理解できる程度の日本語にしてある。
 - ・複数の訳、訳語が考えられる場合は、() や / で補足した。
 - ・脚注に書ききれなかった事項などを若干補足した(❖印)。ヘブライ語が必要な場合は、それと分かるよう簡単にローマ字表記した(翻字ではない)。
-

§3-9

- (1)私はヨセフだ。
- (2)私は主である。
- (3)主は偉大だ。
- (4)私はヘブライ人だ。
- (5)ニネベは大きな町だ。
- (6)私はイスラエルを治める王だ。
- (7)命に代わりに/命に対しては命、目の代わりに目、歯の代わりに歯、手の代わりに手、足の代わりに足 (「目や、歯などに対して命を求める復讐はしてはいけない」の意)
- (8)聞け、イスラエルよ、主は我らの神であり、主は一つだ。
(「主なる我々の神、主は一つだ」、「主なる我々の神は一つの主だ」なども)

§4-13

- (1)王はとても老いている。
- (2)私は神であって人ではない。
- (3)民は空腹で、疲れ、喉が渇いている。
- (4)私はお前の主であり、妬む/熱情の神だ。
- (5)人とはなんだ？
- (6)ヨブは純粹無垢で正しい人だ。
- (7)ファラオはヨセフに言った:私はファラオである。
- (8)彼は言った:お前は誰か？ 彼女は言った:私はルツです。
- (9)主はカインに言った:アベルはどこだ？
- (10)その女は言った:私は身ごもっています。
- (11)主は偉大なる神であり、あらゆる神々にまさる/神々の上にある王である。
- (12)サウルは彼に言った:お前は誰の息子か、少年よ。

§5-8

- (1)イスラエル(の民)はこのヨルダン川を渡った。
- (2)ユダもまた主の掟を守らなかった。
- (3)その人はハヴァ(＝イブ)を知った。
- (4)ダビデはイスラエルを治めた。
- (5)主は与え、主は奪った。
- (6)王はイスラエルに税/強制労働を置いた/課した。
- (7)ソロモンは主の家/神殿を建てた。
- (8)王は民(の言うこと)を聞かなかった/耳を貸さなかった。
- (9)エジプトに新しい王が立った/現れた。
- (10)彼女は王に言った:その言葉は真実でした。
- (11)パンも食べなかったし、水も飲まなかった。
- (12)アッシリアの王はサマリアを奪い取った。
- (13)ウツの地にある男がいた。…その人は純真で正しい人だった。

§6-12

- (1)アブラハムとサラは年老いている/老人だ。
- (2)彼は予言者を皆殺しにした。
- (3)主は全イスラエルに大いなる救いを行った。
- (4)ダビデ王もまた大いに喜んだ。
- (5)ソロモンはすべての王国の支配者であった。/王国を支配していた。
- (6)モーセは石板にその言葉を書いた/刻んだ。
- (7)ダビデ王はそれらの言葉をすべて聞いた。
- (8)ソロモン王は多くの異邦の女を愛した。
- (9)6日間/にわたって、主は天と地を造り、七日目に休んだ。

§7-11

- (1)サラはどこか？ ― テントの中に(います)。
- (2)主はあらゆる神々にまさって偉大である。
- (3)近くの隣人は遠い兄弟よりもよい。
- (4)彼は言った:この場所はなんと畏れ多いことか。
- (5)ヤコブは彼らに言った:あなた方はどこからきたのか？
彼らは言った:ハランからです。
- (6)モーセのような預言者は二度とイスラエルに現れなかった。
- (7)その日主はアブラムと契約を結んだ。
- (8)ヨシュアはこれらすべての王たちと戦った。
- (9)神は光を昼と呼び、闇を夜と呼んだ。
- (10)民は戦いから逃げ、民のうちの多くもまた倒れた。
- (11)(主は)ダビデにこの多くの民の上に賢い王を与えた。
- (12)彼は(主に)言った:アア、この民は大きな罪を犯しました。

§8-9

- (1)私には希望がある。
- (2)モアブの王は私に向かって反乱を起こした。
- (3)王はあなたが気に入っている。

- (4)彼らに言った:彼は元気か？ 彼らは答えて言った:元気です。
- (5)あなたたちには父か兄弟がいるのか。 私たちには老いた父がいます。
- (6)その穴は空っぽで、その中に水はない/なかった。
- (7)主はあなた方にこの地を与えた。
- (8)主はあなた方に怒った。
- (9)あなたの神、主にとってあなたは聖なる民である。
あなたの神である主はあなたを選んだ。

§8-10

- (1)主こそが神で、他にはいない。
- (2)主のように聖なるものはいない。
- (3)その地に雨がなかった。
- (4)神は我々になんということをしたのか。
- (5)太陽の下に新しいことはなにもない。
- (6)私はヨセフです。まだ父は生きていますか。
- (7)ある金持ちにとっても多くの家畜や牛がいた。
- (8)(ヤコブは) 言った:本当にこの場所には主がいる。
- (9)アブラムはエジプトに下った。その地に飢饉が激しかったからだ。
- (10)サムソンはガザに行き、そこで遊女に出会った。

§9-10

- (1)リフカ(=レベカ)はヤコブを愛した。
- (2)死人は何も知らない。
- (3)あなた方はこのヨルダン川を渡る/渡ろうとしている。
- (4)どうしてあなた方は大きな悪を行うのか。
- (5)イスラエルはヨセフに言った:私はもうすぐ死ぬ。
- (6)乙女が身ごもって息子/男の子を生む。
- (7)その町は火で燃やされ(て)いる。
- (8)サウルは言った:あなた方が主によって祝福されるように。
- (9)その事柄/出来事はこの書に書かれている。

(10)あなたはすべての獣よりも/獣の中でもっとも呪われる。

(11)聴く耳、見る目、その二つとも主が作った。

§9-11

(1)町の全部が見捨てられ、その中に住むものは一人もいない。

(2)女預言者デボラがその時代にイスラエルを治めた。

(3)まだヨセフは生きており、そのうえ彼は全エジプトの統治者である

/エジプトを統治していた。

(4)主なる神はその人から取ったあばら骨を女に作った。

(5)ある人に二人の妻がおり、一人は愛され、一人は疎まれていた。

(6)世代は行き去り、世代は来る、だが大地は永遠に静止して動かない。

風は南に行き、北に巡る。

すべての川は海に向かうが、海は満ちることがない。

すべてのものは同じ(一つの)場所に向かって行く。

すべてのものは塵からできたので、すべてのものは塵に帰る。

(7)主はすべての倒れる人にとって支となり、すべてのうずくまる人にとって立ち上がらせる

(方である)、

天と地と海を、そこにある/いるすべてのものを創った(方である)、

永遠に真実を守る(方である)、虐げられた人々のために裁きを行い、

飢えた人々にパンを与える(方である)。

主は目の見えない人の目を開き、主はうずくまる人を立ち上がらせ、

主は正しい人を愛する。

§10-6

(1)ノアは主の目にかなった。

(2)なぜお前は王の命を踏みにじったのか。

(3)契約の書を取り、民の耳に朗読した。

(4)私はシャロンの野のバラであり、谷間のユリです。

(5)ソドムの人々は主にとって非常な悪人であり罪人である。

(6)ダビデはシオンの要塞、それはすなわちダビデの町、を征服した。

(7)イサクは言った:声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ。

(8)アブラムは彼の妻サラをマクペラの野の洞窟に葬った。

(9)それゆえ、その(町の)名をバベルと呼んだ。そこで主が全地の言葉を乱したからである。

(10)主なる神は土から野のすべての生き物と空のすべての鳥を創った。

❖「すべての生き物」の前に *et* を入れたバリエントがある。

(11)主なるイスラエルの神はこのように言う、「私はソロモンの手から王国を引き裂く」と。

(12)クセルクセス王の名において書き、王の印章を押し、使者によって文書を送った。

(13)主はモーセに雲の中から呼びかけた。主の栄光の光景はイスラエルの民の目には
(シナイ)山の頂で/を焼き尽くす火のようであった。

❖「山の頂」に付いている前置詞 *be-* の意味は「で、において、にある、を」など。

§11-8

(1)私は愛に病んでいる。

(2)モーセは言った:一体どうしてお前たちは主の命令に背こうとするのか。

(3)主はモーセに言った:お前たちは頑固な民だ。

(4)アベルは羊飼いに、カインは地を耕すものになった。

(5)私は虫けらであって人ではない。人の恥/人のあざけりの対象であって、民によって
軽蔑された者。

(6)私は言葉の(巧みな)人間ではありません・・・私は口が重く、舌が重いからです。

(7)エサウは狩り(の術)を知る人、野の人となり、一方ヤコブは穏やかで天幕に住む人
となった。

(8)アッシリア王サンヘリブはユダの難攻不落の町々に向かって上って行った/進軍した。

(9)主の僕モーセは主の言葉のとおり/言葉に従ってモアブの地(そこ)で死んだ。

(10)コヘレトーダビデの息子、エルサレムの王一の言葉。

空の空、コヘレトは言った:空の空、すべては空。

(11)神はソロモンに知恵、非常に多くの/豊かな聡明さ、海辺の砂(浜)のような心の

広さを与えた。ソロモンの知恵は東方のすべての人々知恵よりも、またすべてのエジプト

(人)の知恵よりも勝っていた/大きくなった。

§12-6

- (1)私の家にはパンもないし、着るものもない。
- (2)私はあなた方の神である。
- (3)彼女には息子がいないし、夫は年老いている。
- (4)どうして今日はあなた方の顔(色)が悪いのですか。
- (5)彼は自分の正義を確信/信頼している。
- (6)その人は女/妻の名をハヴァと呼んだ。
- (7)ヨシュアはこれらの王たちと、彼らの土地を征服した。
- (8)あなたの子孫にこの地を与える。
- (9)ファラオは彼の臣下たちのために宴を催した。
- (10)我らの神、主が我々に与えてくれる地は良い。
- (11)彼女には子がいなかった、彼女の死ぬ日までずっと。
- (12)あなたは元気ですか、あなたの夫は元気ですか。・・・彼女は言った:元気です。
- (13)ファラオは(ヨセフの)兄弟たちに言った:あなた方の仕事は何か？
- (14)主よ、我らの主よ、あなたの名は全地でなんと輝かしいことか！

§12-7

- (1)母の胎から/生まれる前からあなたは私の神です。
- (2)あなたの民は私の民、あなたの神は私の神(です)。
- (3)ファラオはヤコブに言った:あなたの生涯の年月はどれくらいか(齢はいくつか)。
- (4)父のイサクは彼に言った:お前は誰だ。彼は答えて言った:私はあなたの息子、あなたの長子エサウです。
- (5)主はカインに言った:お前の兄弟アベルはどこにいるのか。答えて言った:知りません、私は兄弟の見張り役なのでしょうか。
- (6)ラバンはヤコブに言った:娘たちは私の娘たち、息子たちは私の息子たち、家畜は私の家畜、あなたが见ている/目にしているものすべては私の所有である。
- (7)イスラエルはヨセフの息子たちを見て言った:これらは誰だ？ ヨセフは父に言った:私の息子たちで、神がここ(エジプト)で与えてくれたのです。
- (8)サムエルは(サウルに)言った:あなたはその目に小さい者であっても、あなたはイスラエルの諸部族の頭ではないか。

- (9)主よ、あなたは我々の父です。私たちは粘土であり、あなたは我々の創り主です。我々は皆、あなたの手仕事です。

§13-6

- (1)彼の息子が彼に代わって王となった。
- (2)主は彼らと契約を結んだ。
- (3)主の使いが天から彼に呼びかけた。
- (4)あなた方の神、主があなた方とともにいるではないか。
- (5)ファラオはヨセフに言った:・・・あなたのように聡明で賢いものはいない。
- (6)神の姿に似せてその人を創った。
- (7)私はあなた方の前に今日、祝福と呪いを与える。
- (8)主なる我らの神は我らと契約を結んだ。
- (9)ファラオはその民に言った:イスラエルの子らの民は今や我々よりも多く強い。

§13-7

- (1)主はモーセに言った:今お前は(死んで)祖先たちとともに横たわる。
- (2)(ヨセフは兄弟たちに安否を尋ねて)言った:あなた方の年老いた父は元気か、・・・まだ生きているのか。彼らは答えて言った:あなたの僕、私たちの父は元気です、まだ生きています。
- (3)私はこの地で死ぬ。私はヨルダン川を渡らないが、お前たちが渡り、その良き地を受け継ぐ。
- (4)彼はエジプトのすべての魔術師たち、またそのすべての賢者たちを呼び、彼らに彼の(見た)夢を話したが、ファラオにその夢を解き明かすものはいなかった。
- (5)これは契約のしるしである、私はそのしるしを私とあなた方との間に、また永遠に、あなた方とともにいるすべての生き物との間に与える。
- (6)ハマンは王に言った:・・・あなたの王国の全州に、諸民族の間に分散、分離された一つの民がいます。彼らの法はどの民とも違っており、彼らは王の法を/行いません/法に従いません。
- (7)山は天の中心(に至る)まで火で燃えていた・・・主なるあなた方の神は火の中から語った。言葉の声/語る声をあなた方は聞か、声のほかには姿を見ない。

(8)あなた方とだけ私はこの契約を結ぶのではなく・・・今日私たちとともにここにいて、私たちの神、主の前に立っている者たちと、また今日ここに私たちとともにいない者たちとも結ぶのである。

(9)モーセの律法に従って心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして主に立ち戻った王、
彼のような王は彼以前にはいなかった。また彼の後にも彼のような王は現れなかった。

§14-8

(1)アブラムの妻であるサラは彼に子を生まなかった。

(2)彼らは主を畏れなかった。

(3)地は悪で満ちていた。

(4)あなたの祖先はエジプトに下った。

(5)あなた方は私を憎んでいるのか。

(6)イスラエルの目は年のせいがかすんできた。

(7)私はイスラエルの子らのうめき声を聞いた。

(8)あなたは年老い、息子たちはあなたの道を歩まなかった。

(9)我々の神、主に対して私たちは罪を犯した。

(10)私はその人たちがどこへ行ったのか知りません。

(11)私はあなたと、またイスラエルと契約を結んだ。

(12/＊2025年版のみ)あなた方は喜びをもって/喜びのうちに救いの泉から水を汲む。

(❖文脈から非過去で訳す)。

§14-9

(1)あなたは私の父ダビデの前で主なる神の箱(契約の箱)を担いだ。

(2)私はあなたの手にも・・・彼の民を、彼の町を、そして彼の地を与えた。

(3)あなたは僕の手にもこの大きな救いを与えてくれた。

(4)ペリシテ人はダビデをイスラエルの王として油を注いだ/(ダビデが)注がれたことを聞いた。

(5)主はこうに言う:あなた方が私を見捨てたから、私もまたあなた方を見捨てた。

(6)イサクはエサウに言った:我が息子よ。イサクに答えて言った:はい、ここにいます。

(イサクは)言った:私は年老いて、私の死の日(私がいつ死ぬか)を知らない。

(7)ヨセフは兄弟たちに言った:私はあなた方がエジプトに売った兄弟のヨセフです。

(8)主なる神よ、あなたは偉大です。あなたのような方は他にはなく、私たちが自分の耳で聞いたすべてのことにおいて(❖~~be~~を ~~ke~~に読み替えて、「すべてのように」)、あなたの他に神はいません。

(9)洞穴ーそれはカナンの地にあるマムレの向かいのマクペラの野/畑地であって、アブラハムがヘテ人エフロンのもとから墓地ための所有地/私有地として(畑地とともに)買ったものだったのだがーその洞穴にアブラハムと、その妻サラを葬り、そこにイサクとその妻リベカ葬り、そしてそこに私はレアを葬った。

§15-4

(1)王の息子たちはみんな死んだ。

(2)民は全員答えて言った、アーメン。

(3)なぜあなた方はこんなことをしたのか。

(4)あなたたちはパンを食べず葡萄酒も・・・飲まなかった。

(5)私は神のあらゆる業を見た。

(6)イスラエルの人はみんな・・・ペリシテ人が逃げ出したと聞いた。

(7)神の霊がサウルのもとから去った/離れた。

(8)王もすべての臣下たちも激しく、声を大にして泣いた。

(9)(人々は口々に)言った:今夜あなたのところにやって来た人たちはどこにいるのか。

(10)あなたたちは寄留者の心/気持ちを知っている、(あなたたちもまた、かつて)エジプトの地で寄留者だったから。

§15-5

(1)目の見えない人にとって私は目であり、足の悪い人にとっては足であった。

(2)あなたが(その上に)立っているその場所は聖なる土地である。

(3)あなたが(そこへ)行くその地は、あなた方が(そこから)出たエジプトの地のようではない。

(4)地は混沌として、闇が水の面にあり、神の風/霊が水の面をうごめいていた。

(5)今イスラエルの人々のうめき声が私に来了/届いた。そしてまたエジプト(人)が(彼らを)虐げている激しい虐げを見た。

- (6)全会衆は彼ら(モーセとアロン)に言った:エジプトの地で死んだ方がよかった、この荒野で死んだ方がましだ。
- (7)(ラヘルは)ヤコブに子を産まなかった・・・彼女はヤコブに言った:息子たちを私に与えてください、さもなくば私は死にます。
- (8)モーセは天に向けて手を差し伸べた。すると暗黒の闇がエジプト全地に 3 日間あった。(人々は)お互いを見なかった/相手の顔が見えなかった、今いる場所から3日間立ち上がらなかった。しかし、イスラエルの人々みんなにはその居住地に光があった。
- (9)私は家を見て、ブドウ園を造った。庭園と果樹園を造り、そこにあらゆる果物の木を植えた。・・・男奴隷、女奴隷を買った。・・・私は自分の手がなす(自分の)行いを顧みた。・・・しかしすべては空であり風を追い求めることなのだ。太陽のもとなんの益もない。

§16-6

- (1)アブラムはそこに住むためにエジプトに下った。
- (2)カナンの地に向かって行くために(アブラムたちは)彼ら(一家)とともにカルデアのウルを出た。
- (3)あなたはペリシテ人の中から妻を娶ろうとしている。
- (4)太陽の下、人にとって食べ、飲むこと以外には良いことはない。
- (5)主は父祖たちに誓った、我々に乳と蜜の流れる地与えると。
- (6)あなた方はこのヨルダン川を渡り、行ってその地を受け継ぐ。
(/行ってその地を受け継ぐために・・・)
- (7)主はあなた方に知る心、見る目、聞く耳を与えなかった。

§16-7

- (1)エジプトから出るとき、主はイスラエルの人々と契約を結んだ。
- (2)サムエルは死の日までサウルを見ることは二度となかった。
- (3)シホンはイスラエルに境を通過させなかった。
- (4)兄弟たちがともに座す/暮らすことはなんと素晴らしく、心地よいことか。
- (5)主なる神は言った、人が一人でいるのはよくない。
- (6)彼らはそのこと(ば)をすべて聞くと、互いに恐れた。

- (7)私たちが他の神々に仕えるため主を見捨てることなどありません。

/主を見捨てて他の神々に仕えるなど・・・。

- (8)バビロンの川のほとり、私たちはそこに座し、また泣いた、シオンを思い起こして。
- (9)ラバンはヤコブに言った:彼女(娘)を他の男にやるよりもお前にやる方がよい。
- (10)(主はソロモンに)命じた・・・他の神々について行かないようにと。だが彼は主が命じたことを守らなかった。
- (11)(誰かが)エリコの王に次のように言った:人々が、つまりイスラエル人(*mi-*の何人か)が今夜ここに来ました。その地を探るためです。

❖「～の何人か」:*min* の部分を表す用法 § 7-7(d)

- (12)主なる神は言った:人は我々の一人のようになって、善と悪を知った。
- (13)天の下に/では、すべてのことには時機があり、すべての出来事には時がある。
生まれるに時があり、死ぬに時がある。 植えるに時があり、引き抜くに時がある。
殺すに時があり、癒すに時がある。 壊すに時があり、建てるに時がある。
泣くに時があり、笑うに時がある。 嘆く時があり、踊る時がある。・・・
裂くに時があり、縫うに時がある。・・・ 愛するに時があり、憎むに時がある。
戦いの時があり、平和に時がある。

§17-7

- (1)男は女の着物を着るべからず。
- (2)あなた方と結んだ契約を忘れてはならない。
- (3)心の中で兄妹を憎んではならない。
- (4)(ノオミは)彼女たちに言った:私をノオミと呼ばないでください。
- (5)彼らはもはや戦いを学ばない。
- (6)あなた方はあなた方の預言者に耳を傾けてはならない。
- (7)どうか私が見たこの夢を聞いてください。
- (8)あなた方の敵を追いかけよ。
- (9)主はモーセに言った、これらの言葉を書きつけよ。

§17-8

- (1)殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。

- (2)涙をもって種をまく者は喜びをもって刈り入れる。
- (3)彼女は言った:王よ、どうか主なるあなたの神を想いおこしてください。
- (4)主なる我々の神に犠牲をささげさせてください/ささげよう、(主が)我々を疫病や剣で打つことがないように。
- (5)私(モーセ)は話し下手です/唇に割礼がありませんから、どうしてファラオが私に耳を傾けるでしょうか。
- (6)あなた方はこう言った:私たちの前に/私たちに先立って人を遣わしましょう、そして私たちのためにその地を探らせましょう。(その地を探らせるために人を遣わす・・・)
- (7)私は私の主君である王のもとに全イスラエルを集めましょう。そうすれば彼らはあなたと契約を結ぶでしょう。
- (8)この律法を全イスラエルに向かって/の前で彼らの耳に読み聞かせるべし。
- (9)主なるあなたの神があなたに与えるかの地に入ったとき、その異教/異邦の人たちの忌むべき行ない/慣習に従って振る舞うことを学んではならない。

§18-5

- (1)パンも食わず水も飲まず、律法の言葉、10の言葉を石板に刻んだ。
- (2)モーセは神のもとに上って行った、すると主は彼に向かって山から呼びかけた。
- (3)エジプトの全地に飢饉が起こり、民はファラオにパンを求めて叫んだ。
- (4)神はラヘルを想いおこし、神は彼女に耳を傾け、彼女の胎を開いた。
- (5)これらすべての言葉を守り、聞き従いなさい。
- (6)この契約の言葉聞き、それらを実行しなさい。
- (7)ソロモンの手から王国を裂き取り、お前に10の部族を与える。
- (8)私は死ぬが、神があなたたちと共にあるだろう。
- (9)あなたの妻サラは息子を産む、あなたはその名をイサクと名づける/名づけなさい。
- (10)その日私はイスラエルの弓を折る。
- (11)主が我々にその地を与えてくれるとき、我々はあなたに厚意を示そう。
- (12)40 日経ってノアは箱舟の窓を開けた。
- (13)祭司たちが聖所から出たとき、雲が主の家/神殿を満たした。
- (14)アハブが死ぬと、モアブの王がイスラエルの王に反逆した。
- (15)イスラエルの王が城壁の上を通っていると/歩いていると、ある女が彼に向かって叫んだ。

§18-6

- (1)聞け、イスラエルよ。われらの神、主は唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くしてあなたたちの神、主を愛しなさい/愛さなければならない。
- (2)あなたたちはヨルダン川を渡ろうとしている、あなた方の神、主があなたたちに与える地を行って所有するために。あなたたちはそれ(その地)を所有し、そこに住む。
- (3)モーセは全イスラエルを呼んで言った:聞け、イスラエルよ、今日私があなたたちの耳に語る掟と法を。そしてこれらを守り実行しなさい。
- (4)ヒラムはソロモンの言葉を聞くと大いに喜んで言った:この大いなる民の上に/民を治める賢い息子をダビデに与えた主は、今日たたえられますように。
- (5)(主が) 語ったように、主があなたたちに与える地に入る/入ったとき、あなたたちはこの儀式を守らなければならない。あなたたちの子どもたちが「この儀式は何ですか」とあなたたちに言うとき、次のように言いなさい。「それは主のための過ぎ越しの犠牲だ。(それはつまり、主が)エジプトを打ったとき、イスラエルの人々の家を飛び越して我々の家を救ったのだ」と。
- (6)ヨシュアが民に(前進するようにと)言うと、7 人の祭司は 7 つの雄羊の角笛を携えて主の前を通り過ぎ、角笛を吹き鳴らした。主の契約の箱が彼らの後を歩んだ。

§19-4

- (1)兄弟のヤコブを殺してやりたい/殺してやろう。
- (2)主はエジプトにいる初子を皆殺しにした。
- (3)罪を犯さない者はいない。
- (4)エジプトの地で飢饉が激しくなった。
- (5)ダビデは全イスラエルを集め、ヨルダン川を渡った。
- (6)私たちはエジプトで只で食べていた魚を思い起こした。
- (7)レアは自分の召使(のジルバ)をとってヤコブに妻(妾)として与えた。
- (8)ラバンは言った:お前に何をあたえようか。ヤコブは言った:何もくれなくてもいいです。
- (9)民の飲む水はなかった。・・・彼らは言った:私たちに水をください。
- (10)カナンの娘たちから妻を娶ってはならない。
- (11)イスラエルの人々に言え、私が主であると。
- (12)町を去って/捨てて岩/崖(の間)に住め。

(13)今、主よ、どうか私の命を私からとってください。

§19-5

- (1)イスラエルの人々はモーセとアロンに言った:主の手によってエジプトの地で死んだらよかったのに。
- (2)彼らの神々の偶像を火で焼かなければならない。その(偶像に付いている)金銀を欲しがってはいけない。
- (3)イスラエルの人々は主に向かって叫んで言った:あなたに罪を犯しました。私たちの神を捨て、バアル神に仕えたからです。
- (4)エジプトに仕えよう、荒野で死ぬよりもエジプトに仕える方が私たちにマシだから。
- (5)私はイスラエルの人々に言った:あらゆる肉の血を(絶対に)食してはならない、あらゆる肉の命はその血であるからだ。
- (6)ヨアブは角笛を吹いた。するとすべての民は立ち止まり、もはやイスラエルを追尾することはなかった。
- (7)主なる神が造ったあらゆる野の獣の中で/獣よりも、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った:神は本当に園にあるどんな木からも取って食べてはいけないと言ったのか。女は蛇に言った:私たちは園の木の実は食べることはできるのです。
- (8)人は言った:私のもとに与えてくれたその女が木から(取って)私にくれたから私は食べたのです。主なる神は女に言った:一体何ということをしたのか。女は言った:蛇が私をだましたから私は食べたのです。主なる神は蛇に言った:そういうことをしたので、お前はどんな家畜よりも、またどんな野の獣よりも呪われる。(❖ここで一旦区切る) お前は腹ばいになって歩み、一生の間塵を食べる/食べなければならない。

§20-4

- (1)お前は塵だから塵に帰る。
- (2)私は食べ、飲むために我が家に帰ろう。
- (3)いつまで寝ているのか、怠け者よ。いつ眠りから起きるのか。
- (4)(主の)救いに歓喜し喜ぼう。
- (5)祭司たちは主の(契約の)箱を担いだ。
- (6)あなたたちは女に近づいてはいけない。

§20-5

- (1)民はモーセと言い争った。
- (2)妻が夜に亡くなった。
- (3)エジプトを治める新しい王が立った/現れた。
- (4)アブラハムはペリシテ人の地に寄留した。
- (5)アブラハムは息子、イサクを割礼した。
- (6)王はエステルを愛し、…その頭に女王の冠を置いた。
- (7)サウルは剣を取り、その上に倒れた/自分の身を投げた。
- (8)6日間で/に主は天と地とを創り…7日目に休息した。

§20-6

- (1)主なるあなたの神の名をみだりに口にしてはならない。
- (2)私は言った、鳩のように翼があったらよいのに、飛んで行って(どこかに)宿りたい。
- (3)父イサクは(ヤコブに)言った:近寄ってキスしてくれ、息子よ。
- (4)白髪/老人の前では起立して、老人を敬え、そしてあなたの神を畏れよ。
- (5)…あなたたちは私の掟から離れて守らなかった。私に立ち戻れ、そうすれば私はあなたたちに立ち帰ろう。
- (6)その時モーセとイスラエルの人々はこの歌を主に向かって歌った。彼らは「主のために歌おう」と言った/と歌った。
- (7)園の中央にある木の実からは、神は言ったのだが、それからは食べてはいけないし、触ってもいけない、おまえたちが死なないように/もしそうしたらおまえたちは死んでしまう。
- (8)主なる神は東の方、エデンに園をつくり、そこに(自分が)造った人を置いた。
- (9)イスラエルはヨセフに言った:お前の顔を見た後で、今や私は死のう/死んでもよい、お前が今なお生きているのだから。
- (10)谷にいたイスラエルの人々は皆、彼ら(=別の場所にいたイスラエル人戦士 ❖サム上 31:6-7から具体的な主語を補充)が逃げるのを見、またサウルとその息子たちが死んだのを見て、町々を捨て逃げた。するとペリシテ人がやって来てそこに住んだ。
- (11)サラはキリヤート・アルバ、すなわちカナンの地にあるヘブロンで死んだ。アブラハムは来てサラのために悼んで泣いた。アブラハムは死者のそばから立ち上がってヘテ人たちに語った:私はあなたの方のもとにいるよそ者で寄留者ですが、あなたの方のもとに墓地とし

ての所有地を(譲って)ください。私の前から死者を葬りたいのです/そうすれば、死者を葬ることができます。

§21-3

- (1)私は良き土地を見るだろう。
- (2)あなたは身ごもっている・・・今はブドウ酒を飲まないようにしなさい。
- (3)あなたは死ぬ(だろう)、そして生きることはない(だろう)。
- (4)私は彼にとって父となり、彼は私にとって息子となる。
- (5)産めよ、増えよ、地に群がれ。

§21-4

- (1)わが主君、ダビデ王がとこしえに生き長らえますように！
- (2)サライは子が産めず、彼女には子がなかった。
- (3)女はその木が食べるに/食べ物としてよさそうだと見た/思った。
- (4)ソロモンの知恵は東方のどんな人たちよりも大きくなった/勝っていた。
- (5)パンを食べるな、水を飲むな。
- (6)彼はエルサレムに上り、主の家/神殿を建てた。
- (7)あなたはあまりに正しくありすぎではならない。
- (8)ヤコブはラヘルに接吻し、声を上げて泣いた。
- (9)神が「光あれ」と言うと光があった。神はその光を見てよしとした/光をよしと見た。
- (10)主の言葉がヨナに臨み・・・こう言った:立ってニネベ、大いなる町に行って、その町に叫べ。

§21-5

- (1)パンだけで人は生きるのではなく、主の口から出るすべての言葉で/言葉によって人は生きる。
- (2)ダビデはその男に怒り、ナタンに言った、主は生きている/主にかけて誓うが、これをする者は絶対に死に値する。
- (3)主はモーセに言った:私のもとに、山に登って、そこにいよ。そうすれば私が書いた/刻んだ石の板と律法と掟を与えよう。

- (4)主はモーセに言った:手を天に向かって差し伸べよ、エジプトの地に闇が起きるように。・・・モーセが手を天に向かって差し伸べるとエジプト全土に暗黒の闇があった・・・。

❖動詞部(原文のまま)を除き § 15-5(8)と同じ文。

- (5)ヨセフは父の顔の上に伏して泣き、父に接吻した。・・・どうか今、(カナンの地に)上り、父を葬らせてください。私はまた(エジプトに)戻ってきますから。ファラオは言った:上ってお前の父を葬るがよい。・・・そこでヨセフは父を葬るために上っていった・・・父を葬ってから、ヨセフは、彼と兄弟たちも、・・・またエジプトに戻った。
- (6)悪人の忠告に(したがって)歩まず、罪人の道に立たず、あざける者のいるところに座らない人は幸いだ。主の教え(律法)にその喜びがあり、主の教えを昼も夜も口ずさむ。/悪人の忠告に(したがって)歩まないで、・・・主の教えを昼も夜も口ずさむ人、そういう人は幸いだ。

§22-5

- (1)カインはその妻を知り、彼女は身ごもってエノクを生んだ。
- (2)彼らはわめき叫んで言う:言ってわれらの神に犠牲をささげよう/ささげたいのだ。
- (3)彼は言った:エジプトに下ってはいけない。
- (4)タマルは行って父の家に留まった。
- (5)その言葉は王の目によかった/かなった/気に入った。
- (6)主こそが神であることを知れ。
- (7)私は悪/災いを恐れない、あなたが(主が)私とともにいるから。
- (8)(主はアブラムに言った)もし数えることができるなら星(の数)を数えなさい。
また彼に言った:あなたの子孫はこのようになる。

§22-6

- (1)女預言者ミリヤムは手にタンバリン(鼓?)を手にとった。すべての女たちはタンバリンをとり、彼女の後に出てきた。
- (2)モーセはその義父エテロのところに戻って行き、彼に言った:エジプトにいる兄弟たち(同胞)のもとに戻らせて/帰って行かせてください。彼らがまだ無事かどうか見たいのです。エテロはモーセに言った:安寧に/無事で行きなさい。

- (3)あなたが行くところに私は行きます。あなたが留まるところに私は留まります。あなたの民は私の民であり、あなたの神は私の神です。あなたが死ぬところで私は死にます。
- (4)今日まで彼らは昔/以前からの(悪い)掟に従って(物事を)行っていて、彼らは主を畏れていない…。主は(かつて)彼らと契約を結んで次のように言った:あなた方と結んだ契約を決して忘れてはならない、他の神々を畏れ敬ってはならない、ただ主なるあなた方の神のみを畏れ敬え。
- (5)ヤコブは眠りから覚めて言った:本当にこの場所には神がいる、だが私は知らなかった。彼は畏れて言った:この場所はなんと畏れ多いことか、神の家以外のなにものでもなく/まさに神の家であって、天の門だ。…彼は枕元に置いた/枕としていた置いた石をとり、それを柱として置き、その天辺に油を注いだ。
- (6)アハブはエリヤを見て彼に言った:実際お前がイスラエルを煩わせて/惑わしている(者)のか。エリヤは言った:私がイスラエルを煩わせたのではなく、あなたとあなたの父の家(が煩わせたの)です。あなた方が主の掟を捨て去ってバアル神に付き従って行ったのです。そこで今、人を遣わして(以下の者たちを)私のもと、カルメル山に集めなさいーイスラエルのすべての人、バアル神の預言者たち 450 名、アシュラ神の預言者たち 400 名、(アハブ王の王妃である)イザベルの食卓にいる者たちを。アハブはイスラエルのすべての人々に人を遣わして預言者たちをカルメル山に集めた。エリヤはすべての民に近づいて言った:いつまであなた方は二つの枝を(あっちへ行ったりこっちへ来たりと)飛び跳ねているのか。主こそが神であるならそれに従え。だが、バアル(が神)ならばそれに従え。民は一言も彼に答えなかった。

§22-7(十戒骨子)

- ①私はあなたの神、主、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したものである。
- ②私のほかに(/私の面前に、などの訳)他の神々があってはならない/持つてはならない。いかなる偶像や姿ある像をつくってはならない。
- ③あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。
- ④安息の日を聖なるものとするためにこれを覚えよ/安息日を覚えて、それを聖別せよ(❖ピエル形不定詞 *qiddesh*+接尾代名詞「それを聖別するために」)。
- ⑤父と母を敬え。
- ⑥殺してはならない。

- ⑦姦淫してはならない。❖ *tin'ap* の *-p*(語末形)が脱落しているので修正。
- ⑧盗んではならない。
- ⑨同胞(友人/隣人)❖ *re'a* の訳は単に「隣人」?)について偽りの証言をしてはならない。
- ⑩同胞(友人/隣人)の家を欲しがってはならない。

§23-4

- (1)省略
- (2)箱舟から出よ。
- (3)主の祭りを祝いなさい。
- (4)エジプトの地から銀が尽き果てた。
- (5)町を巡りなさい。…祭司は角笛を吹きなさい。
- (6)エサウは長子の権利を軽視した/無駄にした。
- (7)彼らの妻たちを虜にし、家にあるものすべてを略奪した。
- (8)ギデオンは…戦いから戻ってきた。
- (9)カインは主の前から出ていって、ノドの地に住んだ。
- (10)恐れてはいけない、おののいてはいけない、主なる神、我が神があなたと共にいるからである。
- (11)ノアは地の面から水が引いたことを知った。
- (12)箱舟はアララの山に止まった。
- (13)ダビデが行ったことは主の目に悪であった。
- (14)神は言った:その民を呪ってはいけない、(その民は)祝福されているからである。

§23-5

- (1)私は必ずお前の手にペリシテ人を与える/渡す。
- (2)アブラハムはきっと大きく強い民になる。
- (3)モーセは民に言った:この日を覚えておけ。
- (4)もし彼が私に向かつて(本当に、常に etc.)叫ぶならば、私は彼の叫びを必ず聞く。
- (5)あなたの上に、主なるあなたの神が選ぶ王を必ず起きなさい。
- (6)主は言った:私はエジプトにいる私の民の苦悩を確かに見た。

(7)武装した(しんがりの)兵/護衛が聖櫃の後を歩き、一方で角笛をずっと吹き鳴らしていた
/角笛が吹き鳴らされ続けていた。

(8)もしも主なるあなたの神を忘れてしまい、他の神々に従ってそれに仕えるなら、
・・・お前たちは必ずや滅ぶ。

(9)確かにお前は園のどの木から食べてもよい:しかし、善悪の知恵の木から、そこからは
決して食べてはいけない、その木から食べた日には必ず死ぬ。

(10)主がアモリ人をイスラエルの人々の前に与えた日、その時、ヨシュアは主に語って、
イスラエルの目に/面前で言った:

※脚注では「< az+ 未完了 > (未来の) その時」となっているが

→「・・・(過去・未来の)・・・」と補足。

「太陽よ、ギベオンの上に留まれ 月よ、アヤロンの谷に(留まれ)」

民がその敵に報復するまで、太陽は留まり、月は静止した。・・・太陽はほぼ一日の間、
空の真真中に留まり、急ぎ沈もうとしなかった。(「ヤシャルの書」にそう書かれている)

§24-5

(1)主は出て行って(異邦の)民と戦った/戦う。

(2)サムエルはサウルを悼んだが、主はサウルをイスラエルに(王として)立てたことを悔いた。

(3)主の宮殿は基礎が築かれていなかった。

(4)神は私の祈りの声に耳を傾けた。

(5)ダビデは豎琴をとり、その手で弾いた。

(6)ダリウス大王はカルデアの王に据えられた。

(7)主は天から大きな石を彼らの上に投げた。

(8)王は急いで戦車に乗り、エルサレムに逃げた/逃げるために乗った。

(9)主は彼(モーセ)に言った:これが、あなたの子孫に与えると言って、アブラハム、イサク、
ヤコブに誓ったその地である。

(10)主なる神は地に雨を降らせなかった、また土地を耕す人もなかった。

(11)お前の子孫を数が多くて数えられない(ほどの)海の砂のように置いた(した/する)。

(12)あなたの神は、あなたの父祖たちに誓ったように、あなたの領域/国境を拡大し、
その全地をあなたに与える。

(13)主は彼の愛する人すべてを守っている(者だ)が、しかしすべての悪人を滅ぼす。

(14)主がその(ソロモンの)王座を主君ダビデ王の王座よりも大きくする/大きくしますように。

(15)主はモーセに言った:このようにイスラエルの人々に言いなさい。「お前たちは私が天
からあなた方と語るのを見た。あなた方は私と並べて造ってはならない、銀の神々や金
の神々をお前たちのために造ってはならない。」

§25-5

(1)我々の兄弟殺して、その血を隠そう。

(2)父と母を敬え。

(3)どうして善の代わりに/善ではなく悪で報いたのか。

(4)主を褒めたたえよ、主の名を褒めたたえよ。

(5)ヨブはその口を開いて、自分の(生まれた)日を呪った。

(6)私たちはシオンで語ろう、主なる我々の神のなせる業を。

(7)アロンは(長老たちに)主がモーセに語った言葉をすべて語った。

(8a)主はファラオの心をかたくなにし、イスラエルの人々を去らせなかった・・・。

(8b)ファラオは心をかたくなにし、イスラエルの人々を去らせなかった。

(9)シバの女王は難問をもってソロモンを試そうとやって来た。

(10)モーセとイスラエルの長老たちは民に命じて言う「私が今日お前たちに命じる掟
/戒めを守れ。」

§25-6

(1)知恵を愛する人は父を喜ばせ、遊女と交わるものは富を失う。

(2)(主は)シナイ山で彼(モーセ)と語り終えると、モーセに、2枚の掟の板、神の手によって
刻まれた石の板を与えた。

(3)アロンがその手をエジプトの水/川に差し伸べると、カエル(男性または女性名詞)が
上がってきてエジプトの地を覆った。

(4)あなたの僕にどうかアラム語で話してください。私たちは聞いて分かるからです。城壁の
上にいる民の耳に/民が耳にしているところで、私たちとユダの言葉で話さないでくださ
い。

(5)(エリヤは) 言った:私は主なる万軍の神に情熱をもって/熱心に従いました、しかし(kiの
意味?!)イスラエルの人々はあなたとの契約を捨て、祭壇を破壊し、剣をもってあなたの

預言者たちを殺したのです。/❖あるいは文の順序を逆にして:「…………預言者たちを殺した時でさえ(*ki*の意味?!)、…………熱心に従いました。」

(6)その後モーセとアロン来てファラオに言った:主なるイスラエルの神はこのように言う「私の民を去らせよ、そして荒野で私のために祭りをさせよ。」ファラオは言った:主とは誰だ、私がおの声を聞いてイスラエルを去らせるべきとは。私は主のことをしらない。またイスラエルを去らせることもしない。…主はモーセに言った:さあ今、私がファラオにすることを見るだろう。すなわちファラオは強い手/強い力によって彼ら(民)を去らせるだろう、強い手によって彼らを彼の地から追い払うであろう(ということを見る)。神はモーセに語って彼に言った:私は主である。

(7a)イスラエルの人々に語って彼らに言いなさい:代々にわたって衣服の隅に房をつくり/付け、(その四つの)隅の房に青い紐を与えなさい/付けなさい。

(7b)身に着けるあなたの衣服の四隅に房を付けなさい。

§26-4

(1)ファラオは急いでモーセを呼んだ。

(2)ファラオの戦車は…葦の海に沈められた。

(3)アブラハムが買ったその野…そこにアブラハムは葬られた。

(4)少年サムエルは主に仕えていた。

(5)民はサムエルの声を聴くことを拒んだ/聴こうとしなかった。

(6)あなた方はいつまで私の戒めと律法を守ることを拒んでいるのか。

(7)急いで行きなさい、ペリシテ人がこの地を襲撃してきました。

(8)お前の命を求める人はみな死んだ。

(9)諸民族の間に分散、分離された一つの民がいます。

§26-5

(1)主はアブラムに言った:あなたを大きな民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高めよう。あなたが祝福の源/基であれ。私はあなたを祝福するものを祝福し、あなたを呪うものを呪う。

(2)私とあなた方との間、またすべてのすべての生き物(←肉体にある生きた魂)との間の契約を私は思い出した/覚えている。すべての肉体を滅ぼす洪水の水はもはや生じない

/水が洪水になって生き物を滅ぼすことはない。

(3)神は行った仕事/創作の業すべてを7日目に完了し、7日目にその創作の業を休んだ/業から休息した。そして神は7日目を祝福し、それを聖別した、その日神は創造してなした業すべてから休息したからである。

(4)洪水は40日間地の上にあり、水は多くなり/増し、箱舟を持ち上げ、(箱舟は)地の面から高く上がった。水はどんどん勢いを増し、地の上にたいへん多くなり、箱舟は水の面に行った/浮かんた。水はいよいよ地の上に増し、空全体の下にある高い山すべてを覆い隠した。

(5)主に向かって新しい歌を歌え 主に向かって歌え、全地よ。

主に向かって歌い、その名をほめよ 日ごとにその救いを語り伝えよ。

国々のなかに/間にその栄光を語れ 全国民の中に/間にその不思議なる業を(語れ)。

(6)ハレルヤ! 褒めたたえよ、主の僕たちよ 褒めたたえよ、主の名を。

主の名が賛美されるように、今からとこしえに至るまで。

日の出るところからその没するところまで 主の名がたたえられる(ように)。

§27-5

(1)ダビデは我々とともに要塞に身を隠している。

(2)これがあなた方が継ぐその地である。

(3)イスラエルの長老たちはみな集まって、ダビデのところにやって来た。

(4)行ってその地を歩きめぐり、それを書き記して私にもとに帰れ。

(5)お前の子孫によって地の全国民が祝福しあう。

(6)ソロモンはファラオと縁組し…ファラオの娘を娶った。

(7)いつまであなたはサウルのことを悲しんでいるのか。

(8)あなた方は他の神々に仕えて拝んだ。

(9)王に「シャローム」と言い、顔を地につけて王を拝んだ/跪拝した。

(10)エルサレムの住民は主の前に伏して主を拝んだ/主を跪拝した。

§27-6

(1)ヒゼキヤ王は(これを)聞くと衣を引き裂き、荒布を身にまとった。

(2)主はこのように言う:知恵ある人はその知恵を自慢しては/誇ってはならない。

力ある人はその力を誇ってはならない。

金持ちはその富を誇ってはならない。

(3) 夕方の風が吹くころ、(二人は)園を歩き回っている主なる神の声/音を聴いた。

人とその妻は主なる神の前から園の木の間に身を隠した。

(4) サウルに向かう戦いは激しくなった。射手、弓を持った人たちが彼を見つけ、射手によって(サウルは)ひどく傷ついた。サウルは従者/武器を携えた者に言った:お前の剣を抜いて、それで私を突き刺せ、これらの割礼なき者どもがやって来て私を突き刺し、私を辱めないように。しかし武器を携えるものは、非常に恐れてよしとしなかった/従わなかった。そこでサウルは剣を取ってその上に倒れこんだ。武器を携える者はサウルが死んだことを知ると、その者もまた自分の剣の上に倒れこんでサウルとともに死んだ。

(5) ある日のことである。神の子たちがやって来て主のところに立った/現れた。その中にはサタン(敵対者)も来ていた。主はサタンに言った:どこから来たのか。サタンは答えて言った:地をブラブラして歩き回って来たのです。主はサタンに言った:お前は私の僕ヨブに目をとめたか/気づいたか。彼のように清く正しく、神を畏れ、悪を避けている者はこの地にいない(ことに目をとめたか)。サタンは主に答えて言った:ヨブはなんのご利益/見返りもなく神を畏れるでしょうか。

§28-5

(1) ペリシテ人は制圧され、二度とイスラエルの境/領域内に来なかった。

(2) ダビデは祖先たちと共に横たわり/眠りにつき、ダビデの町に葬られた。

(3) ペリシテ人はイスラエルと戦うために集まった。

(4) イスラエルの人はすべてソロモン王のもとに集められた/集まった。

(5) ヨセフの兄弟たちは彼に答えることができなかった。彼を前にして驚いたからである。

(6) 主を忘れないように注意せよ。

(7) さあ、今、主において/主のいるところで私に誓ってください。

(8) アハズは主の家/神殿にある銀と金を取った/取り出した。

(9) 主は彼(ヤコブ)に現れて言った:エジプトに下ってはいけない。

(10) 神は彼(ヤコブ)に言った:あなたの名はヤコブだが、あなたの名はもはやヤコブと呼ばれない。イスラエルがあなたの名前となる。そこで自分の名をイスラエルと呼んだ。

§28-6

(1) 地は神の前に墮落し、地は暴行で満ちていた。

(2) 聞け、イスラエルよ、この日、あなたは主なる神にとって民になった/主の民になった。

(3) あなたの声/足音を園で聞きました。私は裸だったので恐ろしくなって隠れたのです。

(4) (過去に)あったことは(これから)あることであり、(過去に)起こったことは(これから)起こることである。太陽の下には新しいことは何もない。

(5) その事は調査されて明らかにされ、二人とも木につるされ(処刑され)た。(この事は)王の前で“日々の出来事の書”に書き記された。

(6) 主はこのように言う:彼らがファラオの家のために(ファラオの家に仕えて)エジプトにいるとき、あなたの父の家にまさに私は姿を現したのである。

(7) 神は言った:天の下の水は一つの場所に集まり、乾いたところが現れよ。そのようになった。

(8) 地の表にいたすべての生き物を、人から家畜、地を這うもの、空の鳥に至るまで、(神は)滅ぼした。彼らは(すべてが)地上から消し去られたのである。そしてノアと彼と共に箱舟にいたものだけが残されたのである。

(9) 地に群がるすべての群れは忌むべきものであり食べられない/食べ(られ)るべきではない/決して食べてはいけない。地に群がるすべての群れについて/群れの中で(◆前置詞 *le-*の意味は多様)、腹で這って歩くもの、4本、また多足で歩くすべてのもの、それらを決して食べてはいけない、それらは忌むべきものだから。すべての群がるものによって自分の喉/自分自身(◆ *nefesh* には複数の訳語あり)を忌むべきものとするな。それらによって自らを決して不浄にするな、汚れた身になるな。私はあなた方の神、主であるからだ。あなた方は自らを聖なるものとして聖別し、聖なるものであれ。私が聖なるものであるからだ。地を這うすべての群れによってあなた自分の喉/自分自身を決して不浄にしてはならない。

§29-3

(1) 城砦の(ペルシャの都)スサ/スサ城でその法が出された。

(2) なぜあなた方は戦うためにその町に近づいたのか。

(3) ダビデはさらに妻妾/側室を持ち・・・ダビデにはさらに息子と娘が生まれた。

(4) ペリシテ人は戦い、イスラエルは打ちのめされてそれぞれ自分の天幕へ逃げて行った。

- (5)民はモーセのことに不平を言い、我々は何を食べようか、と言った。
- (6)ソロモンは父ダビデの王座につき、その王権/王国は確固としたものになった。
- (7)神はモーセに語って言った:私は主である。私はアブラハム、イサク、ヤコブに全能の神(エル・シャッダイ)として現れた。しかし主という私の名前を彼らに知らせなかった/明かさなかった。
- (8)男はみんな割礼される/するべきだ。あなた方は包皮の肉を割礼すべきだ。それは私とあなた方との間の契約の印になる。男はみんな(生後)8目に割礼すべきである。
- (9)主は地に人を創ったことを後悔し、心を痛めた。主は言った:私は自分が創造した人を地の面から消してしまいたい/消してしまおう、人から家畜、這うもの、空の鳥に至るまで。私は彼らを造ったことを後悔した/しているからだ。だがノアは主の目に恵みを得た。
- (10)・・・葡萄酒の宴会/酒の席で王はエステルに言った:お前の願いは何か、王妃エステルよ。(望むものは)お前に与えられよう。お前の望みは何か。王国の半分さえも(望みは)なされよう/叶えられよう。王妃エステルは答えて言った:もし私が王の目に好意を得、王にとってよしとするならば、私の願いにおいて/願いとして我が命を、私の望みにおいて/望みとして我が民を与えてください/救ってください(←「願い」を主語とみなして「与えられますように」)。なぜなら、私と民とは、絶やしにするため、殺すため、絶滅させるために売られてしまうのです。

§29-4

- (1)その柴は火で燃えてはいるが、焼きつくされないのである。
- (2)エジプトで生まれたヨセフの子らは二人である。
- (3)もしあなたの恵みを得られるなら、この地を与えられますように。
- ❖ BDB などの古い記述では、プアルがホフアルの項に入れられていることあり。(5)のプアルも同様。
- ❖ cf. Holladay, p.250 (qal pass の項)に、*yuttan*[男]の意味上の主語が *et*-女性名詞の例が挙げられている(王上 2:21)。
- (4)土に帰るまで顔の汗をもって/額に汗してパンを食べなければならない。あなたはそこから取られたのだから。あなたは塵だから塵に帰るのだ。
- (5)水を少し持ってこさせましょう、あなた方の足を洗ってください。
- ❖ cf. Holladay, p.223 に、*-na with jussive: just let (a little water) be brought*

- (6)ファラオの大臣たちが彼女サライを見てファラオにほめたたえたので、その女はファラオの家/宮廷に連れていかれた/召し入れられた。

§30-4

- (1)私は明日の今頃、非常に激しい雹を降らせる。
- (2)彼らは神を信じず、その救いに頼らなかった。
- (3)アッシリアの王たちは民たちとその地を荒廃させた。
- (4)あなたの戒めを私に隠さないでください。
- (5)私はその日、顔を必ず隠す。
- (6)この場所から立って出よ、主がこの町を滅ぼすからだ。
- (7)民は早朝に起きてそこに祭壇を設けた。
- (8)我が民よ、私の教え/律法に耳を傾けよ。
- (9)サウルはペリシテ人の手によってダビデを倒そうと考えた。
- (10)エジプト(人)は彼ら(イスラエルの人々)の後を追いかけて、彼らに追いついた。
- (11)あなたは何をしたかを私に告げなさい。
- (12)彼は言った:あなたは誰の娘ですか、どうか告げて/教えてください。
- (13)モーセは民の言葉を主に告げた。

§30-5

- (1)あなた方の頭の側面/もみあげを切り取ってはならない。あごひげの端を損なっては/切り落としてはならない。
- (* ユダヤ教徒の中にはもみあげを巻き毛にする習慣あり)
- (2)私は主に祈って言った:主なる神よ、あなたの民を滅ぼさないでください。
- (3)(ナダブ王は) 主の目に悪を行ない、父の道を歩み、(父が)イスラエルに犯させた罪を歩いた/繰り返した。
- (4)神は言った:水の中に大空/天蓋/蒼穹があれ。水と水の間を分けるものになれ。神は大空を造り、大空の下の水と大空の上にある水とを分けた。そのようになった。神は大空を天と呼んだ。夕があり、朝があった。第2番目の日である。
- 神は言った:天の下の水は一つの場所に集まり、乾いたところが現れよ。そのようになった。神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼んだ。神は良しと見た/見て良し

とした。

神は言った:地は、地の上に、草木を芽生えさせよ(❖ *tadshe* とすぐ後の *deshe* を同族目的語表現と解する)。つまり、種をつける草、その中に種があって(←関係詞節)実をなす果樹をその種類に従って芽生えさせよ。そのようになった。

地は草木を、つまり、種をつける草をその種類に従って、そして中に種があって実をなす木をその種類に従って生み出した/生じさせた。

神はこれを見て良しとした。夕があり、朝があった。第3番目の日である。

§31-4

(1)私はエジプトの地から彼らを導き出した主なる彼らの神である

(2)イスラエルの人々をエジプトの地から導き出せ。

(3)その町の住民を必ず打ち殺さなければならない。

(4)レビ人が主の箱を下に下した。

(5)主は、エジプトからあなたたちが出たとき、葦の海/紅海を干上がらせた。

(6)主に感謝し、あなたの名のためにほめ歌うことは素晴らしいことだ。

(7)ハレルヤ！私は心をこめて主をほめたたえよう/感謝をしよう。

(8)息子に乳を飲ませようと朝起きると、死んでいたのです。

(9)イスラエルの人々がエジプトから携えて上ったヨセフの遺骨をシケムに葬った。

(10)私はイスラエルをエジプトから上らせ、あなた方をエジプトの手から救い出した。

§31-5

(1)エステルは王の前で再び語った。王の足元にひれ伏し、泣いて王に憐れみを乞うた。

ハマンの悪事とユダヤ人について考えた計画/企てを取り除いてくれるようにと。

(2)あなたが死ぬところで私は死に、そこに葬ってほしい。死んでも決して別れません。

(→脚注参照)。

(3)(主はアブラムを)外に連れ出して言った:天を見上げ星を数えてみなさい、もしそれを数えることができるなら。また彼に言った:あなたの子孫はこのようになるだろう。

(4)サムエルは民に言った:主はあなたたちを喜んで自分の民としている。私もまた、主に対して罪を犯し、あなたたちのために祈ることをやめるようなことは決してしない。あなたたちに正しく善い道を教えよう。

(5)ダビデは主に問うて言った:私は行って、このペリシテ人を討つべきでしょうか。主はダビデに言った:行ってペリシテ人を討ち、そしてケイラを救え。

(6)主はモーセに言った:アロンに次のように言え「お前の杖を差し伸べて地の塵を打て。

そうするとエジプト全土で(塵は)ブヨになる」。彼らはそのようにした。

アロンが杖を持った手を差し伸べて地の塵を打った。するとブヨが人と家畜にあった/取りついた/を襲った(❖主語の *qinnam*「ブヨ」は男性名詞だが、文頭の *wattehiy* は女性形になっている。理由不明。なお、この語は数回使われてる程度)。

地のすべての塵はエジプト全土でブヨとなった。

(7)主はこう言った:・・・私がエルサレムからバビロンへ送ったすべての捕囚民に。

家を建てて住み、果樹園を作り、その実を食べなさい。妻をめとり、息子、娘をもうけなさい。息子には嫁をとり、娘は嫁がせて息子、娘を産ませなさい。そちらで(人口を)増やし、減らしてはいけない。私があなたたちを捕囚として送った町の平安を求め、その町のために主に祈りなさい。その町の平安の中で、あなたたちに平安があるのだから。

§32-3

(1)神は言った:天の大空に光り輝くもの(複数形)があれ、昼と夜とを分けるために。それら(の光るもの)は印となり、季節となり、日となり、年となれ/季節のための、日のための、年のための印となれ。それらはまた、天の大空の光となれ、地の表を照らすために。そしてそのようになった。

神は二つの大きな光—大きい方の光を昼の支配のために、小さい方の光を夜の支配のために—そして星々を創った。そしてこれらを神は、地の表を照らすために、天の大空に与えた/置いた。昼と夜を治めるため、また光と闇とを分けるためである。神は見て良しとした。(・・・第4の日である。)

(2)地は神の前に墮落/破滅し、地は悪で満ちていた。神が地を見ると、墮落していたのだ。すべての肉なるものが地上でその道を墮落させたからである。神はノアに言った:すべての肉なるものの終わりが私の前にやって来た。地が彼らの故に暴虐に満ちたからだ。今から私は彼らを地と共に破滅させる。ゴフェルの木の/で方舟を造れ。葦で箱舟を作り/箱舟を小部屋にして(?? 意味は不確か)、内側も外側も瀝青/アスファルトを塗りなさい。

・・・私は今から地上に洪水、(つまり)水もたらす。すべての肉あるもの—その中に命の息

/霊があるもの一を天の下から滅ぼすためである。地にあるすべては滅びる。(しかし)私はあなたと契約を立てよう。あなたも息子たちも、あなたの妻も息子たちの妻たちも、あなたと共に箱舟に入りなさい。そしてすべての生きているもの、すべての肉なるものの中から、二匹ずつ(/全ての中から二匹を)箱舟に連れてはいりなさい。あなたと共にオスとメスを生かすためである/あなたと共に生き延びるために、それはオスとメスであるべきだ。

❖後半部分はやや複雑な語順

(3)主は彼、モーセに言った:お前の手にあるのは何か。モーセは言った:杖です。主は言った:それを地に投げろ。モーセがそれを地に投げると蛇になった。モーセはその前から逃げた/後ずさりした/飛びのいた。主はモーセに言った:手をさし出して、その尻尾をつかめ。モーセは手をさし出してそれをつかんだ。すると手の平の中で杖になった。…主は彼にさらに言った:手を懐にもっていき。手を懐にもっていき、それを(懐から)出すと、その手は皮膚病(ツァラアト)にかかって雪のようだった/雪のように白かったのだ。(主は)言った:手を懐に戻せ。(モーセは)手を懐に戻した。手を懐から出すと、肉のように/元の肌に戻ったのだ。

(4)彼ら(異教の民)の偶像は銀や金 人の手による業
(それらには)口はあるが語らず 目はあるが見ない
耳はあるが聞かない 鼻はあるが臭いを嗅がない
手はあるが/彼らの手は感触がない 足は(あるが)/彼らの足は歩き回らない
その喉で声を出さない

§32-4 (以下、一部の語句を省略した文がある。)

(1a)アッシリアの王はイスラエルをアッシリアへ(捕囚民として)強制連行した。
(1b)イスラエルはその地からアッシリアへ追放の身となった。
(1c)(ヤコブは)井戸の口から石を転がし、羊に水を飲ませた。
(2a)イスラエルはエジプトの地に住んだ。
(2b)ヨセフはエジプトに帰っていった。
(2c)モーセは民に言葉を主に持ち帰った。
(3a)神はその地を見た。
(3b)主がアブラムに現れた。
(3c)彼は彼らを王の息子に会わせた。

(4a)(アブラムは)エジプトから上っていった。

(4b)(ダビデは)サウルの遺骨をそこから携えて上った/そこから移した。

(5a)民はモーセと言い争った。

(5b)民は増えて、たいへん強くなった。

(6a)(アラムの王は)上ってサマリアを包囲し、それ/サマリアと戦った。

(6b)主なる神は…天のすべての鳥を造った。

(6c)ヤコブは非常に恐れ、いたく悩んだ。

❖「悩む」の後についている *lo* はいわゆる ethical dative であろう、p.259 脚注

(7a)ソロモンは主の家/神殿を建て始めた。

(7b)モーセは主なる彼の顔を宥めた。

(8a)その言葉はアブラムの目にたいへんつらかった/不愉快だった…神はアブラムに
言った:あなたの目につらく思うな/不快に思うな。

(8b)民は声を上げ、角笛を吹き鳴らした。

(8c)イスラエルは皆、大きな叫びを叫んだ/大きな声で叫んだ。

§33-4

(1)戦いの日のために馬は準備されている。
(2)その人たちはヨセフの家に連れてこられたので、怖くなった。
(3)安息の日に仕事をする者は必ず死ぬ。
(4)その日この歌がユダの全地で歌われる。
(5)エルサレムからの逃亡者が私のもとにきて言う:町が破壊された。
(6)サウルはヨナタンの声を聞いて、サウルは誓った:主は生きている/主に誓って、ダビデは決して死ぬことはない。
(7)その日戦いは激しさを増し、(イスラエルの)王は戦車の中で支えられて立っていた。
(8)彼ら(住民たち)は言った:主なるあなたの神がモーセに命じたことを/が、あなたの僕どもに確かに告げられました。
(9)モーセとアロンを/がファラオのもとに(呼び)戻されると、ファラオは彼ら(二人)に言った:行って、お前たちの神、主に仕えよ。
(10)ヨセフはエジプトに下って行かせられると、エジプト人であるファラオの高官ポティファルが、ヨセフをそこに下らせた/連れ下ったイシュマエル人の手から彼を買った。

(11)主は彼(カイン)に言った:それゆえ/いやそうではない、カインを殺すものは皆、7倍復讐を受ける。彼を見つけるもの皆が殺さないようにカインに印を付けた。

(12)(ペルシャの)都/城砦スサ/スサ城にユダヤ人の男が一人いた。その名をモルドハイという。(系図略)……このモルドハイは捕囚民とともにエルサレムから連れてこられたのであるが、(その捕囚民は)バビロンの王ネブカドネツアルが追放したユダの王イエホンヤとともに連行された者たちであった。

❖ イエホンヤ(=イエホヤキン、ヨヤキン)は BC597 の第一次バビロン捕囚時の王
(列王記下 24 章参照)

§33-5

(1)私は子供たちを大きくし、(位を)高めたが、彼らは私に背いた。

(2)人とその妻は二人とも裸であったが、互いに恥ずかしく思わなかった。

(3)その書状はアラム語/アラム文字で書かれ、アラム語に翻訳された。

(4)今、恐れることはない。私はあなたたちと子供たちを養います。

(5)(人々は)海から海まで、北から東までさまよう。主の言葉を求めてさまよい歩くが見出すことはない。

(6)民はモーセがなかなか山から下りて来ないのを見て、アロンのもとに集まった。

(7)神は言った:水は生き物で群がるように、鳥は地の上を、天の大空/蒼穹の面を飛ぶように。

❖ *sherets* は動詞「群がる」の同族目的語

❖ cf.「地と天の大空との間を飛べ」、「天の蒼穹の面に沿って地上を飛べ」、
「地の上(に)、天の大空の面を飛べ」などの別訳。

(8)(自らの)義のゆえに滅びる義人がおり、(自らの)悪のゆえに長生きする悪人がいる。

正しすぎتهはいけない、賢こすぎتهはいけない。

なぜ自分を滅ぼすのか/自滅してよかろうか。

(9)イザベルが主の預言者たちを殺戮したとき、オバデヤは 100 人の預言者を取り/救い出し、50 人(づつ)を洞窟にかくまい、パンと水で彼らを養った。

(10)あなたの日が満ちて、あなたは祖先たちとともに横たわる。(その時)私はあなたの腹から出てくる後の子孫を立て、その王国を確固とする。彼は私の名のために家を建て、その王国の王座を永遠に固くする。

§34-5

(1)私は荒れ野であなたを知った。

(2)それ(町)を火で燃やした。

(3)私は彼を憎んだ。

(4)主はあなたを悪/災いから守ってくれる。

(5)(主よ)あなたの掟を私に教えてください。

(6)王は私にあることを命じた。

(7)どうか私をエジプトに葬らないでください。

(8)あなた方は我々をエジプトから上らせた。

(9)(主は)我が敵から私を救う。❖(9)の脚注で、[ニ]を[ヒ]に修正。

(10)私はそれを/その土地をあなたに与える。

§34-6

(1)我が神、我が神よ、どうして私を見捨てたのですか？

(2)(ルツは)義母が彼女に命じたとおりに行なった。

(3)乳と蜜の流れる地に(主は)私たちを導き上った。

(4)さあ、我々に町の入り口を示せ/教えろ。(❖ *na は「促し」のニュアンス)

(5)私は彼女(リフカ)に言った:どうか私に水を少し飲ませてください。

(6)今日私があなたに命じるすべての掟を守り、行いなさい。

(7)私は死ぬ前に彼(ヨセフ)に会おう/会いたい。

(8)彼は…文書/手紙を受け取りそれを読んだ。

(9)私があなたに示す地に…行きなさい。私はあなたを大きな民にし、あなたを祝福する。

(10)彼を(男の子は皆)ナイル川に投げ込め。

(11)(アムノン)は彼女(タマル)を強烈に憎んだ。彼女を愛した愛よりも彼女を憎んだ憎しみの方が大きかったからである。

(12)もしあなたのところにヘブライ人の兄弟姉妹(同胞)売られてきたら、6 年間あなたに仕えなければならない。そして7年目にはあなたのもとから自由な身分として彼(*ここでは「彼女」も含む)を去らせなければ/解放しなければならない。あなたのもとから自由な身分として解放する場合は、決して手ぶらで/何も与えずに解放してはいけない。

(13)門の入り口に皮膚の病にかかった4人の人がいた。彼らはお互いに言いあった:どうして私たちは死ぬまで座っているのか。町の中に入ろうと言っても、町の中は飢餓状態で私たちはそこで死んでしまう。ここにいたとしても死んでしまう。今はアラムの陣営に行つて降伏しよう。もし彼らが私たちを生きかしてくれるなら生きよう/生き延びるだろう。もし我々を殺すなら死んでしまうのだ。

§35-13

(1)一つの民と一つの言葉/同じ民と同じ言葉

(2)40日40夜

(3)10番目の月

(4)110歳

(5)7人の息子と2人の娘

(6)1万人の人

(7)700頭のロバ

(8)2千頭の馬

(9)12の町々

(10)25,100 人

(11)クセルクセス王の治世第12年、第1の月、すなわちニサンの月に

(12)クセルクセス王の治世第7年、第10の月、すなわちテベトの月に、エステルはクセルクセス王のもとその王宮に連れてこられた/召しだされた。

❖(11)、(12)は 2025 年版のみ。
